

# 主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 30

## エペソ人への手紙において (2)

### 神の傑作としての一人の新しい人の創造主

聖書：創 1:26. エペソ 2:14-16. 4:22-24

#### I. 人を創造したときの神の意図は、団体の人を得て彼を表現し、彼を代行することでした——創 1:26. エペソ 2:15：

- A. 神は人をご自身のかたちに創造して彼を表現させ、人に彼の統治権を与えて、人が彼を代行して彼の敵を対処するようにしました——創 1:26。
- B. 新創造における新しい人としての召会は、神のかたちを帯びて神を表現し、神の王国のために神の敵と戦います——コロサイ 3:10-11. エペソ 2:15. 4:24. 6:10-11。
- C. 古い人の中で分裂し散らされたものは、新しい人の中で回復されます——創 11:5-9. 使徒 2:5-12. コロサイ 3:10-11。

#### II. 新しい人は神の詩、傑作として、キリストの死を通して、彼の復活の中で創造されました——エペソ 2:10, 15-16：

- A. わたしたちは 15 節の二つの句、「彼の肉体の中で」と「ご自身の中で」に十分な注意を払う必要があります：
  - 1. キリストは「彼の肉体の中で」、宇宙におけるすべての消極的なものを終わらせました：サタン、悪魔、神の敵（ヘブル 2:14）、罪（ローマ 8:3. ヨハネ 1:29）、墮落した人の肉（ガラテヤ 5:24）、この世、コスモス、サタンの邪悪な体系（ヨハネ 12:31）、古い人で代表される旧創造（ローマ 6:6）、律法の分離する数々の規定（エペソ 2:15）。
  - 2. キリストは範囲、要素、本質としての「ご自身の中で」、ユダヤ人と異邦人を一人の新しい人へと創造しました：
    - a. キリストは一人の新しい人、召会の創造主であるだけでなく、新しい人が創造された範囲、また要素と本質でもあります。
    - b. 彼は一人の新しい人の要素また本質であり、神の神聖な性質を人性と一つの実体とします——参照、コロサイ 3:10-11。
- B. 新しい人の創造において、まずわたしたちの天然の人はキリストによって十字架につけられ、次に古い人を十字架で断ち切ることを通して、キリストは神聖な要素をわたしたちの中へと分け与え、わたしたちを神の働きの傑作、宇宙における絶対的に新しい項目、神の新しい発明としました——ローマ 6:6. II コリント 5:17：
  - 1. 「傑作」のギリシャ語の言葉は「ポイエマ」であり、「詩として書かれ、構成されたもの」を意味します。
  - 2. 詩的な文書が詩と考えられるだけでなく、作者の知恵と意図を表現するどの芸術作品も詩と考えられます。
  - 3. わたしたち、召会、神の働きの傑作は、神の無限の知恵と神聖な意図を表現する

詩です。召会は、すべてキリストであることの神の知恵ある展覧です——エペソ 3:10-11。

4. キリストは、神の救いにおける三つの極めて重要な事柄としての、神からわたしたちに与えられた知恵となりました—— I コリント 1:30 :

a. 義（わたしたちの過去のため）、それによってわたしたちは神によって義とされ、霊の中で再び生まれて、神聖な命を受けました——ローマ 5:18. 8:10。

b. 聖別（わたしたちの現在のため）、それによってわたしたちは魂において、彼の神聖な命をもって聖別されつつあります（思い、感情、意志において造り変えられる）—— 6:19, 22。

c. 贖い（わたしたちの将来のため）、すなわち、わたしたちの体の贖い、それによってわたしたちは体において、彼の神聖な命をもって変貌させられ、彼の栄光の姿を持ちます—— 8:23. ピリピ 3:21。

5. わたしたちがそのような全体的で完全な救いにあずかるのは神によります。この救いはわたしたちの全存在（霊、魂、体）をキリストと有機的に一とし、彼をわたしたちのすべてとし、わたしたちを、キリストであるすべての知恵ある展覧とします。

**Ⅲ. 十字架上でキリストがご自身の中で新しい人を創造したのは、数々の規定から成っている戒めの律法、隔ての中垣を、彼の肉体の中で廃棄することによりました——エペソ 2:14 後半-15 前半 :**

A. 15 節で語られた律法は、道徳的な戒めの律法ではなく、儀式的な戒めの律法であり、例えば、割礼、安息日を守ること、ある食物を食べることの規定です。

B. 規定とは生活や礼拝の形式あるいは方法であり、敵意と分裂を創造します :

1. 十字架上でキリストは、生活と礼拝に関するすべての規定、諸国民を分裂させた規則を廃棄しました—— 15 節. コロサイ 2:14。

2. バベルの時から、人類は生活と礼拝の方法に関する規定によって分裂させられてきました。召会生活における神のエコノミーの中で、わたしたちはバベルに打ち勝たなければなりません——創 11:1-9 :

a. キリストがわたしたちの唯一の源であるべきです。わたしたちは自分の背景、文化、国民性の何をも、わたしたちの源とならせるべきではありません——参照、コロサイ 3:10-11。

b. この世の人は文化の違いを名声の源と考えますが、キリストの中で、わたしたちはこの名声を脱ぎ捨てました。今やわたしたちの唯一の名声は、キリストと真の一です。

c. わたしたちが進んで自分の文化的な誇りを過ぎ去らせるなら、主は正常な召会生活を持つことが可能になります——エペソ 4:22-24。

**Ⅳ. 一人の新しい人のために、またその中で、わたしたちはキリストの平安にわたしたちの心を裁定させる必要があります—— 2:14 前半, 15 後半. コロサイ 3:12-15. 2:14-18.**

**ローマ 5:1. マタイ 18:21-35 :**

A. 「裁定する」のギリシャ語の言葉は、「審判する、つかさどる、あらゆることの支配者、決定者としての位に就く」とも訳すことができます。キリストの裁定する平

安は、だれに対するわたしたちの不平をも解決します——コロサイ 3:13-15。

B. しばしばわたしたちは三者が内側にいることに気づきます。積極的な者、消極的な者、中立の者です。ですから、内なる裁定が、わたしたちの内側の不和を解決する必要があります：

1. わたしたちの存在の内側で異なる者が論争し口論していると感じるときはいつも、わたしたちはキリストのつかさどる平安に地位を与えて、新しい人の一であるこの平安に、わたしたちの内側で支配させ、最終の言葉を持たせる必要があります。
2. わたしたちは自分の意見、観念を脇に置いて、内住のレフェリーの言葉に聞き従う必要があります。

C. わたしたちがキリストの平安にわたしたちの心を裁定させるなら、この平安はわたしたちの間のすべての論争を解決します。わたしたちは垂直に神と、また水平に聖徒たちと平安を持ちます：

1. キリストの平安の裁定を通して、わたしたちの問題は解決され、聖徒たちの間の摩擦は消え去ります。そして召会生活は甘さの中で保護され、新しい人は実行上の方法で維持されます。
2. キリストの平安の裁定は、キリストがわたしたちの内側で働いて、わたしたちに対する彼の支配を行使し、最後の言葉を語り、最終決定をすることです——参照、イザヤ 9:6-7。
3. わたしたちはキリストの王位に就いた平安の支配の下にとどまるなら、他の人を怒らせたり駄目にしたりしないでしょう。むしろ、主の恵みによって、また彼の平安をもって、わたしたちは命を人に供給するでしょう。
4. この平安はすべての信者を結び付け、結合するきずなとなります——エペソ 4:3。

V. 一人の新しい人の中で、キリストはすべての肢体であり、すべての肢体の中におられます——コロサイ 3:10-11：

A. わたしたちの中に住んでいるキリストは、一人の新しい人の構成要素です—— 1:27. 3:11：

1. キリストは新しい人のすべての肢体であるので、新しい人の中でどの天然の人（どの人種、国籍、文化、社会的身分）に対する何の可能性も、余地もありません—— 10-11 節。
2. わたしたちがどのような種類の人であっても、一人の新しい人に関する限り、みな無です。
3. 一人の新しい人にはただ一人のパーソン、すなわちすべてを含むキリストだけがあります—— 2:17. 3:4, 11。

B. 新しい人のために、わたしたちはみなキリストをわたしたちのパーソンとする必要があります——エペソ 2:15. 3:17 前半：

1. キリストのからだとして、召会はキリストをその命として必要とします。一人の新しい人として、召会はキリストをそのパーソンとして必要とします。
2. キリストは一人のパーソンとしてわたしたちすべての中におられます。ですから、わたしたちはみなただ一人のパーソンを持っています——ガラテヤ 2:20. エペソ 3:17 前半。

3. 一人の新しい人の実行上の存在のために、古い人のパーソン全体は取り去られなければならない、わたしたちは新しい人によって生きなければなりません——ローマ 6:6. ガラテヤ 2:20. エペソ 4:22-24. 3:17 前半：
  - a. わたしたちはキリストをわたしたちのパーソンとし、彼をわたしたちの中ですべての決定をする方とすることによって、新しい人の中の生活をする必要があります。
  - b. いったん、わたしたちが一人の新しい人の一部であることを見るなら、単に自分で事を決定することはできなくなります。
  - c. わたしたちは、わたしたちが団体のからだ、また団体の新しい人であり、わたしたちの生活（パーソン）と行動（命）が団体的であることを見る必要があります——I コリント 12:12. ローマ 12:4-5。
4. わたしたちはエペソ第 2 章 15 節の「一人の新しい人」を、ローマ第 15 章 6 節の「一つの口」、また I コリント第 1 章 10 節の「同じ事を語り」と一緒に考察する必要があります：
  - a. 過去、あまりに多くの人がいたゆえに、あまりに多くの口がありました。
  - b. 「一つ思いをもって」と「一つの口で」とは（ローマ 15:6）、たとえわたしたちは数が多く、みな語っているとしても、みな同じ事を語ることを意味します——I コリント 1:10。
  - c. わたしたちは数が多く、多くの場所から来ていますが、みな一つの口を持っており、みな同じ事を語ります。これは、わたしたちがみな一人の新しい人であって、ただ一人のパーソンを持っているからです——エペソ 2:15. 4:22-24. 3:17 前半. ローマ 15:6. I コリント 1:10。